

令和5年度 全国学力・学習状況調査

～町立小中学校の結果の概要～

この調査の目的は、全国小学6年生・中学3年生の児童・生徒の学力・学習状況調査を把握し、課題の検証を通して改善にいかすためのものです。

1. 調査結果の取り扱いについて

- (1) この調査は、序列化や競争を目的とするものではありません。
- (2) この調査で測定できる学力は、特定の一部であり、学校の教育活動の一側面です。

2. 小・中学校の調査結果の概要

【学力について】

(1) 小学校

令和5年度は、国語・算数の2教科の調査となりました。国語・算数とも全国・大阪府平均を下回りました。

国語では、「書くこと」に課題が見られ、出題形式としては「記述式」に課題があることが分かりました。一方、令和4年度の課題であった「読むこと」では3問中2問が、全国・大阪府平均を上回りました。問題の内容としては中心となる語や必要となる情報を見付けることができるかどうかを問われるものでした。

算数では、すべての領域で全国・大阪府平均を下回りました。特に「数と計算」「データの活用」では正答率が低く、令和4年度に引き続き課題の残る結果となりました。一方、無回答率が0%の問題が3問、5%以下の問題が5問とあきらめずに問題に取り組む姿勢がうかがえる結果となりました。

(2) 中学校

町内1校のため平均正答率の数値は公表しません。

国語は大阪府平均を上回りました。数学・英語は全国・大阪府平均を上回りました。

令和4年度は、国語では「書くこと」に課題がありましたが、令和5年度は全国・大阪府平均より高い水準となりました。さらに、令和4年度に課題であった「記述式」の正答率も令和5年度は大阪府平均を上回りました。また、無回答率は全15問中14問が全国・大阪府平均より低く、あきらめずに問題に取り組む姿勢がうかがえる結果となりました。

数学では、「データの活用」の領域で全国平均を下回りましたが、他の3領域では全国・大阪府平均を上回りました。特に、「数と式」の領域では全国平均を20ポイント程度上回る問題もありました。知識・技能の確実な定着が見られます。

英語では、考えとその理由を「記述式」で答える問題では課題が見られました。一方、構文の問題では全国・大阪府平均より正答率が10ポイント以上高いものもありました。

【学習状況について】

児童・生徒アンケートの結果は、全国・府とほぼ同等の結果でした。以下に示すものは、河南町として大切にしていきたい点です。

- (1) 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」との回答が小学校で8割以上、中学校で9割以上でした。今後も児童・生徒の良いところを認め、それを伝えることで自尊感情を高めていきたいと思えます。
- (2) 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」との回答が小学校で8割以上、中学校で9割以上でした。基礎・基本の確実な定着をめざす授業づくりに取り組んでいきます。

3. 課題解決のために

- (1) 基礎・基本の定着が確実に行われるよう、児童・生徒により一層寄り添った授業づくりに取り組みます。
- (2) 話し合い活動を多く取り入れ、児童・生徒が互いの意見や考えを高め合う魅力ある授業づくりに取り組みます。
- (3) 言語活動を通して、読解力をはじめ、ことばの力をさらに高めることができる授業づくりに取り組みます。

※日々の教育活動実施にあたり、今後とも保護者、地域の方々のご理解・ご協力をいただきながら取り組んでいきます。

担当課：河南町教育委員会事務局 教・育部 教育課 指導係

